

筑紫野市環境審議会 令和7年度第1回会議 会議録

開催日時：令和8年1月20日（火）10時00分～11時10分

開催場所：筑紫野市役所 4階 403会議室

出席委員：7名（市川 清紳、岩熊 志保、佐子山 恒子、田口 靖三、田邊 友子、林 博徳、
平野 修） ※五十音順

欠席委員：1名（井上 剛士）

事務局：3名（環境課：益永 晃、中村 義弘、田中 恵夢）

傍聴人数：0名

会議次第：

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
 - ・事務局より出席者の報告及び会議成立の確認（出席者7名、欠席者1名）
- 【審議事項】
- 3 第三次環境基本計画年次報告書（令和6年度版）について
- 4 事務連絡
- 5 閉会

◎ 議事要旨

○審議事項 第三次環境基本計画年次報告書（令和6年度版）について

◆事務局より内容についての説明

- ・成果指標達成状況について（環境課環境保全・廃棄物担当係長 中村）
- ・【P4】成果指標の達成状況の表中「自然環境学習の参加者数」の基準値を285人に訂正。

・【P16】成果指標の達成状況の表中「市民が触れることができるよう整備活用されている史跡等の数」の実績値を9箇所に訂正。

・資料編2「筑紫野市・・・パートV」について、現在パートVIに見直し中。

◆質疑応答（施策1「豊かな自然と生物多様性を保全する」について）

委員：5ページの有害鳥獣捕獲頭数は指標として少ない方がいいのか、多い方がいいのか、また、有害鳥獣の内訳がどういう動物がいるのかがわかられば知りたい。

事務局：猪は741頭、ニホンシカは155頭、アライグマは77匹、鳥類は71羽、アナグマは21匹、その他が15匹の内、鳥類を除いた頭数である。R6は例年と比べても捕獲が多くあったため、動物たちの食べものが不足し、捕獲できるところまで、山から下りてきていたと考えられる。少なからず、野生動物の頭数が減っていると考えられ、多かったら、人への被害を防いだと考えられる。なお、R7の現状の捕獲頭数はR6と比べて大幅に減少している。R7は豚熱の影響も出ているのかもしれない。

会長：豚熱は太宰府市でも通知があった。筑紫野市でも広域的に発生しているのか？

事務局：R7の捕獲頭数が減っているという現状とみつかった死骸については、その個体については、感染を県と確認している。

委員：学校現場からの意見として、出前講座は、学校に依頼すると思うが、先生たちはカリキュラムがいっぱい新しい内容がポンと入ると嫌がる。また、授業として活用するノウハウがない。出前講座は、単元に使えると思うので、校長会でお願いして、活用すればいい。啓発も必要。学校のプールも民間委託をすることになる。今後、防火水槽でしか使えない。先生は、申し込みの手順がわからない。そこのバランスが難しい。市内のどこの学校であっても、子ども達は、川に入れば怒られる。近くに田んぼもあるが入れなかつたりと自然にふれる機会が減っている。

事務局：講座の希望と教職員の異動の影響について課題とする。解決に努める。

委員：生物多様性について、市内にどんな貴重な生き物、資源があるのかを把握する仕事を進めないと、何が重要なのか、課題なのかが検討出来ない。それが一番の課題。場所も併せて把握が必要。

会長：環境指標の森を設定している。以前の環境課の職員が指標種を示したが、また見直して、決めていく必要があると思う。これから指標種の選定とどうしていくのかを決めていく必要がある。学校のプールに絶滅危惧種の昆虫が出てきたりもした。都市と自然環境の生き物の保全を考えていく必要がある。

委員：福岡県の保健環境研究所との連携をすることで、知識を補えるのでは。

◆質疑応答（施策2「廃棄物の減量と適正処理を推進する」について）

委員：つくしちゃん護美袋はレジ袋としても使えるということだが、いくらくらいで販売しているものなのかな。制度について。

事務局：つくしちゃん護美袋は、指定ごみ袋の小サイズと同サイズで1枚あたり20円。デザインはつくしちゃん。指定袋は通常10枚組だが、つくしちゃん護美袋はばら売りしている。レジ袋としては高いが、レジ袋として使用したあと、市の指定ごみ袋とし

て使用でき、プラごみ削減に寄与できる。

委 員：どれくらい売れているのか？

事務局：最初はなかなか浸透しなかったが、R7に入ってからは取扱店舗では捌けている。レジ袋には少し大きいサイズということもあり、取扱店舗がまだまだ少ない。拡充に努めていく。

委 員：地域で分別誤りが多い。もしかして通がかりの人が置いているのではないか、徹底をお願いしたい。うちの町内でも増えてきているが、町内ではない若い人が置いていそう。新しく町内に入ってきた人などには資料を渡してあると思うが、そういうところをさらに徹底していけたらと思う。

事務局：市町村によって、ごみの出し方が異なるので、引っ越しのタイミングなどで説明資料を渡しているので啓発に努めていければと思う。なお、R7の調査では、10.8%だった。分別間違いは発生しているため、引き続き注視していく。

◆質疑応答（施策3「地球温暖化対策と気候変動適応策を推進する」について）

委 員：啓発はどのような方法で市民に周知しているのか？

事務局：例えば、熱中症予防啓発数については、福祉部門の催している講座の中で啓発をしていたり、広報、SNSなどを活用して、啓発活動を行っている。

委 員：年齢が高い人はSNSの活用はなかなか難しい。啓発の方法については配慮して欲しい。

事務局：福祉部門では高齢者向けの講座を実施しているので、そのような場面での推進をしていきたい。

委 員：デコ活とは何なのか。これは浸透しているのか。はじめて聞いた。

事務局：デコ活は、脱炭素（Decarbonization）を減らす（Decrease）とエコ（Eco）を掛け合わせた造語。各家庭で行える脱炭素の取り組みを紹介している。以前までは省エネが推進されていたが、エアコンも我慢して使うのではなく、効率のいいエアコンへの更新を進めることで電気代も少なくなる。LEDも同様。快適に省エネができる具体的な取組などを季節に応じて、啓発を進めている。

会 長：温防センターからも学習の機会で広めていくよう言われているが、まだまだ、浸透はしていないと思う。

委 員：二酸化炭素（CO₂）も含まれているようだ。数年前から環境省がPRしているようだが、クールビズなどとは違って、まだまだ定着はしていないと思う。

委 員：学校施設などの公共施設はCO₂排出量があがっている。現場としても危機感を感じている。蛍光灯のLED化の見通しなどは。

事務局：2027年度蛍光灯製造中止のため、教育施設の照明も順次入れ替わっていく。

委 員：子どもたちの健康管理。夏場は教室で子どもたちは汗をふきながら授業を受けている状況なので、空調は朝から入れている。全館のため、電気量も膨大。加えて他市のように体育館にも空調設備が設置されたら、気をつけていたとしても、二酸化炭素の排出が増える一方だ。エアコンも古いため、夏場室温が下がらない。教育

委員会にお願いし、エアコンの分解清掃をお願いしているが、予算に限りがある。更新する費用も多額になる。スポットクーラーを他の学校から借りてきたりなど、対策は講じているが、快適な環境を整えることに現場も負担がある。

会長：体育館はまだ設置はないのか。

事務局：計画段階にある。

委員：特別教室はR7の12月に設置してもらった。夏、冬は特別教室で授業ができない程だった。今後、体育館へのエアコンも設置する方向だと聞いている。(CO2の排出量は上がるばかりだ)避難場所としての機能もあるため、設置の方向で動いていると聞いている。

◆質疑応答（施策4「良好な生活環境を形成する」について）

なし

◆質疑応答（全体的なことについて）

委員：P28、29のLPG、軽油の使用量が増えた理由は？

事務局：LPGについては、R6は夏の暑さ、冬の寒さが例年と比べても厳しく（P33参照）、空調の使用で施設利用者の健康被害を防いだことによるものと考えられる。軽油については、現場での健康被害を防ぐために発電機を使用したためと考えられる。

委員：小中学校の発電機もガスを使用するので増加させている。

—議事終了—

◎事務連絡

会議録、年次報告書については作成次第委員へ確認いただいた後、確定版をホームページで公開する。